

石岡市報号外

昭和二十九年六月二十六日

石岡市役所

三村との合併について

石岡市の今後における合併の方針については、さきに市報でお知らせしたとおり、三、田余、玉川、竹原の五ヶ村を合併すべく推進して参りましたが、そのうち三村については順調な話し合いが進み、去る二十一日に兩市村議會に於て満場一致議決を行い、来る九月一日から實施のことに申請致しました。ついではこの合併についての概要をお知らせし御協力を願いたいと存じます。

この合併のねらい

現在の石岡市は中心部の市街地（商工業）とまわりの農村で形造られていきます。そして本市の商工業はその大部分がまわりの市内農家及三、田余、玉川、竹原等の農村を相手として成立つています、したがってこれらの周辺農村の盛衰は本市商工業の盛衰に直接つながっているわけです。そこでこのまわりは農村を石岡市に含め大きな力で道路を改良したり農業の開発発展をはかればそれがたゞちに商工業の発展とゆうことになり、共存共榮とゆうかたちで石岡市全体の発展になるわけです。

これまでの経過

五月二十三日 市長はじめ市勢調査委員一行三村を訪問合併を呼掛け。
二十八日 三村長、村議一行來訪、合併につき懇談
六月三日 市助役、市勢調査委員一行三村訪問懇談
十一日 三村長、村議一行來訪協議
十二日 石岡、三村合併促進協議会を結成諸協議を進める。
十七日 市議會全員協議会を開き協議
十九日 市内各層代表駐在員等の參集を求め、この合併について報告協力を求める。
二十一日 石岡、三村兩議會で合併を議決
二十二日 県に對し申請書提出

合併についての取きめ

- 1、新農村計画を樹立し農政の強化をはかる。
- 2、恋瀬川改修工事を促進する。

参考（質疑應答）

問、いまのまゝでも苦しい財政の石岡市が五〇〇万円も借金のある三村を合併したら益々大変だと思いませんか？

答、三村側の五〇〇万円の借金とゆうのは赤字とゆうわけではなく、事業資金の借入金であり五〇〇万円の負債を引受けるかわりに壹千万円もかけた中學校施設も引受けるわけです。ですから資産としては入る方が多いわけです。又この五〇〇万円の負債を払うことについてはそのうち約一〇〇万円は三村自体で合併（九月）までに支払う見込であり、残額の四〇〇万円もその大半が今後十年間位に払えばよい低利資金であるので市財政には大して響きません。又合併により來年度から三村分として節約される三役等の人件費は年間約一〇〇万円になるので財政面のゆとりもでるわけです。

- 3、三村で施行した事業資金の未償還負債四九〇万円を引継ぐ（中學校建設資金二九〇万円、道路改良資金一六〇万円）（病虫害対策費四〇万円、計四九〇万円）
- 4、文教施設は現場のまゝとし、漸次整備強化をはかる。
- 5、現在實施中の道路整備事業の完成をはかる。
- 6、議會議員の定数は大勢順應とするが人口比率による小選舉区制を希望する。
- 7、消防施設の整備強化をはかる、吏員は全員吸収し配置等は無條件一任とする。（但し三役は來年四月にて解任）
- 8、固定資産税率は二十九年下半期より石岡市と同率とし村民税は二十九年度に限り従前のとおりとする。
- 10、人事及給與は小委員會を設けて協議する。

人口面積・財政等の調

人口、面積

区 分	石 岡 市	三 村	計
人 口	三〇、六四五	三、一〇七	三三、七五五
戸 数	六、二一六	五四一	六、七五七
人口密度(平方)	六八五	三二七	六二六
面積(平方)	四四、四	九、五	五三、九

財 産（單位千円）

区 分	石 岡 市	三 村	計
二八年度予算額	九七、八四九	一一、七八八	一〇九、六三七
市町村税額	四一、六三四	五、〇〇三	四六、六三七
全 徵 收 率	七二%	八九%	八〇%
負 債	八、三三四	四、九一五	一三、二四九

市 民 人 口	水 戸	下 館
石 岡	八五、〇一六	五二、六一九
古 河	六四、五八三	三九、五六八
日 立	六三、九九三	三三、九〇四
土 浦	六三、四六六	三三、〇六一
各 市	三〇、六四五	三二、三〇三
下 妻		